



**Data**

監督・脚本: モーリー・スリヤ  
 出演: マーシャ・ティモシー/デア・パネンドラ/エギ・フェドリー/ヨガ・プラタマ

---



---



---



---



---



---

## 👁️👁️ みどころ

近時、中国やインド映画のみならず、フィリピンやタイ等のアジア映画の進出が目立っているが、本作ではじめてインドネシア映画を鑑賞！16歳の時にはじめて観たマカロニ・ウェスタンにもビックリしたが、70歳にはじめてナシゴレン・ウェスタンにビックリ！インドネシアは島国とばかり思っていたのに、この荒野はナニ？この音楽はナニ？

荒野には馬がよく似合うが、生首はどうも……。この生首は剣ナタで切り取ったものだが、若手の女性監督はなぜそんな残忍なストーリーの本作を？そんなあっと驚く、インドネシアの流儀で貫かれた、ひとりの女性の闘いの旅路たる本作を、マカロニ・ウェスタンの「ドル箱三部作」やタランティーノ監督のキル・ビル（～KILL BILL～Vol.1）』『キル・ビル（～KILL BILL～Vol.2）』と対比しながら、しっかり味わいたい。



### ■□■ 16歳でマカロニ・Wを！70歳でナシゴレン・Wを！ ■□■

私が、クリント・イーストウッド主演の『荒野の用心棒』（64年）を観たのは、16歳の時。それまでよく観ていたジョン・ウェイン等が主演するアメリカの西部劇とはまったく異質のニヒルな主人公にもビックリしたが、今でもよく聞いているエンニオ・モリコーネが作曲したあの映画音楽も新鮮だった。日本で大ヒットしたそんな新しい西部劇（？）の名前は、何と「マカロニ・ウェスタン」だった。

それに対して、70歳ではじめて鑑賞したのが、チラシに「闘うヒロイン」が世界中をぶった斬る！！！！「これがナシゴレン・ウェスタン（インドネシア流西部劇）」だ！！！！

と書かれているナシゴレン・W。しかし、ナシゴレン・Wって一体ナニ？チラシやプレスシートによると、ナシゴレンとは、「インドネシアを代表する焼き飯料理」で、インドネシア語で“nasi”は「米飯」、「goreng」は「油で炒める」の意味らしい。なるほど、本場の西部劇とはまったく異質のイタリア西部劇(?)に、「マカロニ・W」という絶妙な名前をつけた日本人がインドネシア発の本作を「ナシゴレン・W」と名付けたわけだが、さてそのネーミングの是非は？

「哀愁が漂うマカロニ・ウェスタンの音楽、獲物を狙うように鈍く光る剣ナタ、灼けつく太陽と果てしない荒野……。7人の強盗団から残酷に虐げられた美貌の未亡人マルリナが、自ら正義と明日をかけて、いま、颯爽と馬に跨がり、誰も見たことのない復讐の旅に出るー！」こんなうたい文句を読むと、まさにマカロニ・Wならぬナシゴレン・Wがピッタリ。しかし、残念ながら本作に拳銃は一切登場しない。また、主人公は美しき未亡人マルリナ(マーシャ・ティモシー)だから、早撃ちのテクニックもまったく登場しない。したがって、西部劇という範疇に分類するのは土台ムリなはずだが、冒頭の荒涼たる風景を見ながら、本作にピッタリとマッチした独特の音楽を聞いていると、いかにも西部劇風だ！さあ、「ナシゴレン・W」なる新たな言葉の定着と拡散は？近時、中国やインド映画のみならず、フィリピンの『立ち去った女』(16年)、『シネマ41』284頁)やタイの『バッドジーニアス』(17年)、『シネマ43』205頁)等のアジア映画の進出が目立っているが、インドネシア映画を観るのは本作がはじめて。しかも、本作は2017年東京フィルメックスで最優秀作品賞を受賞した作品だから、しっかり注目したい。

## ■□■「7人の侍」ならぬ「7人の強盗団」はナニを？■□■

中国の美人女優、章子怡(チャン・ツイイー)を一躍日本で有名にした張芸謀(チャン・イーモウ)監督の『初恋の来た道』(00年)、『シネマ5』194頁)では、若い教師が戻ってきた故郷への道は田舎道、山道だったが、これは広い中国大陸だから当然。しかし、人口2.5億人という大国ながらインドネシア共和国は日本と同じ島国だから、台湾と同じように周囲の海が美しい国のはず。そう思っていたが、本作を観るとその舞台は荒涼とした荒野だから、島国のイメージとはまったく異質で、海の気配はまったく感じられない。

また、ストーリー展開の中にケータイが登場するから時代が現代であることがわかるが、インドネシアのスンバ島にある僻地に、夫と子供に先立たれた未亡人マルリナが住むのは荒野の一軒家だ。そこに、バイクに乗った初老の男マルクス(エギ・フェドリー)がズカズカと入っていき、「あと30分で仲間が来て、お前の金と家畜をいただく。それから、7人全員でお前を抱く。今夜は祭りだな。」と宣言したからビックリ！かつてスカルノ大統領が統治していた国、インドネシアは法治国家ではないの……？

私はつい、ケータイが通じないことがわかれば、マルリナはマルクスのスキを盗んでバイクを奪いそれに乗って逃げればいいのにと感じてしまったが、それではストーリーは展

開しない。マルクスに遅れてやってきた「7人の侍」ならぬ「7人の強盗団」は直ちにマルリナの家畜をすべて盗み出し、下っ端の若者フランツ（ヨガ・プラタマ）ら2人がそれを売るため、トラックに載せて町へ向かうことに。その間、マルリナは洪々マルクスの命令どおり残った5人分の鳩のスープ料理を準備しつつ、自らを襲う運命を想像していたが、その中で彼女が構想した計画とは・・・？

## ■ ■ 『キル・ビル』は日本刀！本作は剣ナタに注目！ ■ ■

タランティーノ監督の国際色豊かなエンタメ作品が、ユマ・サーマン演じる金髪のヒロイン「ザ・ブライド」の復讐劇である『キル・ビル（～KILL BILL～Vol.1）』（03年）（『シネマ3』131頁）、『キル・ビル（～KILL BILL～Vol.2）』（04年）（『シネマ4』164頁）だった。そこでは、梶芽衣子が歌う「恨み節」のメロディと歌詞がピッタリだったし、マカロニ・ウェスタン風の残忍さもしっかり味付けされていた。また、『キル・ビル』の大切な小道具として登場していた日本刀は切れ味の鋭さが持ち味だったが、インドネシアに今でもあるらしい“剣ナタ”の本作に見る切れ味は？

女の相手を誰が最初にするのかについて全くもめることなく合議で決まったのは、マルクスのリーダーシップが強いため。しかし、残りの4人もマルリナが作った食事を食べながら順番を待つだけだから、それほど不満はないらしい。もっとも、男尊女卑が徹底している（？）インドネシアでは、5人の男たちはマルリナが素直に命令に従うと思込んでいるところが何とも不思議。これでは、食事の中に毒でも盛られたらイチコロでは・・・？ そう心配していると、案の定・・・。

しかし、ベッドで待っているマルクスに食事を持っていったところ、「食事は後だ」「こっちに来い」と抱きすくめられようとして食事をひっくり返してしまったのはマルリナのチョンボ。さらに、「取り替えてきます」と言っても、「食事は後だ」「服を脱げ」と言われると、マルリナは観念するしかない。そんな進行で、マルリナがあえなくマルクスの性の餌食になっていくのかなと思っていると、何の何の・・・。そこで、上になったマルリナが背後から手に取り、鞘から抜いた剣ナタが一閃すると、見事マルクスの首が胴体から離れてしまったからビックリ！いやはや、1980年生まれの女流監督モーリー・スリヤもやるものだ。そして、何よりも『キル・ビル』のヒロイン、ザ・ブライドに勝るとも劣らない本作のヒロイン、マルリナの強盗団の男など屁とも思わない実行力に感服！

## ■ ■ 荒野には馬がピッタリ！不気味な生首の賛否は？ ■ ■

『荒野の用心棒』の大ヒットを受けて、同じくクリント・イーストウッド主演による『夕陽のガンマン』（65年）、『続・夕陽のガンマン』（66年）が続き、「ドル箱三部作」と呼ばれるマカロニ・ウェスタンの“体系”が完成したが、これらの作品では、主人公が一度は痛めつけられる残忍なシーンが一つの見どころだった。それと同じように、本作ではレイ

ブ魔と化したマルクスの首を剣ナタで見事に切り落としたマルリナは、「第1幕：強盗団」に続く、「第2幕：旅」と「第3幕：自首」では、その生首を持って警察に自首するべく出かけていくので、その展開に注目。

バスの運転手が生首を手を持ったマルリナの乗車を拒んだのは当然だが、マルリナは剣ナタを突きつけてバスの発車を命令したから、ここでもマルリナの強さが目立つ。もっとも、偶然同乗した出産間近の友人のノヴィ（デア・パネンドラ）や、偶然乗り合わせた老婆の対応を見ていると、それもインドネシアの田舎風景の1つとしてユーモアをもって受け入れることができるから不思議だ。

そんな“のんびり感”の中、マルリナから奪った家畜を売るため別行動をとっていた手下のフランツらが、マクスらの死体を発見した後、バスに追いついてくると俄然緊張感が走っていく。しかし、そこでもフランツらのバカさ加減もあって、マルリナは容易にフランツらから逃れたが、そこで面白いのが、あたかもマルリナに乗ってもらうのを待っていたかのように一頭の馬がつかがれていること。そんなうまい偶然があるはずないが、とりあえず本作では何でもあり！インドネシアの荒涼とした荒野には、マカロニ・ウェスタンの「ドル箱三部作」と同じように馬がよく似合う。生首を袋の中に隠さないままぶら下げて歩くマルリナの姿には少し違和感があるし、首をなくしたマルクスが歩いてマルリナの後ろを追うシーンにも賛否両論があるだろうが、マルリナの乗馬姿のカッコ良さには誰も異論はないはずだ。

本作中盤を鑑賞するについては、クリント・イーストウッドの乗馬姿とマルリナの乗馬姿をしっかりと対比しながら楽しみたい。

## ■□■「起承転結」の「転」は？■□■

本作は95分と短めだが、「第4幕：出産」に至るまで起承転結の構成がしっかりできている。しかして、「第3幕：自首」では、馬に乗って一人で町にやってきたマルリナが、警察に事情を打ち明けたにもかかわらず、官僚主義丸出しの警察官から、「警察が動くには証拠が必要だ。検査器具が届くのは来月。自分で医者に行くか？」とあしらわれるシーンが描かれる。それを見ていると腹立たしくなるだけだが、「第3幕：自首」で癒やされるのは、亡くなった子供と同じトパンという名の少女との出会いだ。トパンは食堂で働いている女の子だが、そこで食事をしたマルリナはトパンと友達になり、箱に入れたマルクスの生首を預けるまでの仲になった。そして、にべもない警察の対応に涙するマルリナを慰めてくれたのが、この幼いトパンだ。

物語の冒頭からずっと気を張り詰めていたマルリナは、そこでトパンから優しく「泣かないで」と言われると、はじめて女らしい涙を流すことに。以上で起承転結の「転」の部分は終了だが、さあ、続くクライマックスの「第4幕：出産」では、如何なる怒濤の展開が・・・？

## ■□■妊婦も剣ナタを！出産は女2人で！■□■

「ドル箱三部作」ではガンマンの敵グループのボスの狡猾さと残忍さが顕著だったが、本作では冒頭のマルクスのバカさ加減が目立っていた。そのうえ「第4幕：出産」では、妊婦のノヴィを人質として荒野の一軒家にマルクスの首を持って戻るよう要求したフランツの、マルクス以上のバカさ加減が顕著になってくる。マルリナが食事の中に含ませた毒草によって仲間4人が殺され、マルクスはレイプ中に首をはねられたにもかかわらず、フランツはここでも「妊婦がメシを作れ。殺人者は俺という」と命令したが、これはちよつと不用心過ぎる。これでは、相棒をメシで毒殺するのが容易なら、レイプ中のフランツの首をノヴィが剣ナタで切り落とすのも容易？そう思っていると案の定・・・。

タランティーノ監督の大作『キル・ビル（～KILL BILL～Vol.1）』『キル・ビル（～KILL BILL～Vol.2）』では、日本刀同士の決闘や銃弾飛び交う中の日本刀での立ち回りのアクションが見物だったが、予算も少なく上映時間も95分の本作では、アクションに大金と時間をかけることができないこともあって、剣ナタのシーンは極めて簡潔。しかし、そのためか逆にあつと驚く衝撃があるので、そのシーンに注目したい。もっとも、既に破水しているノヴィの出産は間近。そこで、コトが終わった後、へたり込んだノヴィの出産を手助けするのはマルリナだ。章子怡（チャン・ツイイー）が茉・莉・花という三世代の女性役を熱演した『ジャスミンの花開く』（04年）では、雨の中の路上で自らの力だけで出産するシーンに驚かされた（『シネマ 17』192頁）が、本作では、医学にズブの素人のマルリナの助力でノヴィが無事出産できたから、ここでもビックリ。男たちのバカさ加減といひ加減さに対比して、女たちのたくましさはどうだ。

しかして、本作ラストは、マルリナと赤ん坊を抱いたノヴィがオートバイに乗って新天地へ向かうべく荒野に向けて動き出すシーンを望遠レンズで捉えるシーンになる。インドネシア出身の若手女性監督による、インドネシアの流儀で貫かれた、ひとりの女性の闘いの旅路ー『マルリナの明日』、をしっかりと楽しみたい。

2019（令和元）年5月17日記